

平成 25 年度 景観・デザイン委員会 第 3 回親委員会

議 事 要 旨

日時：2014 年 5 月 26 日（月） 17:00～19:00

会場：土木学会 講堂

出席者（敬称略）：

<委員>北村委員長（新任）、天野委員長（退任）、伊藤委員（新任、D1 編集小委員会新委員長）、
五道委員、齋藤委員（デザイン賞選考小委員会委員長）、佐々木委員、関委員（景観・デ
ザイン研究編集小委員会委員長）、高橋委員、樋口委員、福井委員、松井委員、松田委員、
山下委員（退任、D1 編集小委員会委員長）

<委員兼幹事>重山幹事長、飯田幹事、井上幹事、大波幹事、水谷幹事、横山幹事、木村幹事

議題：

1. 委員長挨拶
2. 新・旧委員および委員兼幹事紹介
3. 新委員長挨拶
4. 各小委員会等活動報告および次年度の活動について
 - ・研究編集小委員会
 - ・防災・復興小委員会
 - ・D1 編集小委員会
 - ・デザイン賞選考小委員会
 - ・デザイン賞検討 WG
 - ・土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG
 - ・「国土交通省技術基本計画への意見提出」報告、及び建議ルールの改正（案）について
 - ・会計関連
 - ・H25 年度活動度評価と H26 予算について
5. その他情報提供・意見交換

資料：

- ・議事次第
- ・資料－1 委員会構成メンバー表
- ・資料－2 土木学会論文集 D1（景観・デザイン）分冊編集小委員会 活動報告
- ・資料－3 デザイン賞検討 WG 資料
- ・資料－4 コンペ実施ガイドライン検討 WG 資料
- ・資料－5 「国交省技術基本計画への意見提出」の報告、今後の対応、「学会としての「建議」
ルールについて」の改正（案）
- ・資料－6 H25 年度委員会会計報告

- ・資料－7 H25 年度委員会活動評価結果（学会本部による評価結果）
- ・資料－8 H25 年度委員会活動実績（当委員会→学会本部に提出）、今後の留意事項
- ・資料－9 H25 年度 JSCE2010 自己評価票（当委員会→学会本部に提出）
- ・資料－10 委員会共催・後援行事の実施方法等について
- ・資料－11 第2回景観・デザイン委員会親委員会（2013.12.14）議事要旨・議事録
- ・別紙－1 第10回 景観・デザイン研究発表会 計画概要
- ・別紙－2 第10回 景観・デザイン研究発表会 シンポジウムについて
- ・別紙－3 土木コレクション2014 リーフレット

議事：

1. 委員長挨拶

（天野委員長）委員長を4年間務めさせていただいた。学会の技術者資格に景観分野を加えることについては、何らかの形で進めていきたいと考えている。

2. 新・旧委員および委員兼幹事紹介

3. 新委員長挨拶

（北村委員長）今年度より委員長を務めさせていただく。皆さんと協力して楽しい委員会となるように努めていきたい。

4. 活動報告および次年度の活動について

1) 研究編集小委員会

- ・関委員より別紙－1について報告された。
- ・水谷幹事より別紙－2について報告された。

（水谷幹事）今年度よりシンポジウムの企画・運営を親委員会で行うこととなり、私（水谷幹事）と木村幹事で担当させていただく。内容についてご提案があれば、別途ご連絡をいただきたい。

（関委員）シンポジウム会場については、梅田等のサテライトキャンパス、あるいは大学内のどちらも利用可能となっている。

2) 防災・復興小委員会

（佐々木委員）今後の活動について委員に照会を行ったところ、何らかのアウトプット作成を目標とする、情報交換の場として継続するといった意見がなされた。今年度も引き続き活動を行っていきたいと考えている。

3) D1 編集小委員会

- ・伊藤委員より資料－2について報告された。

（山下委員）j-stage 側のフォーマット変更に対応するため、xml 形式の書誌情報（bib）へと移行する必要があり、何らかの追加作業、コストが必要になることを想定している。

（樋口委員）委員会論文集に設けられていたデザイン・作品部門等のカテゴリーは今でも残っているのか。また、発表会の A 部門に相当する論文が少ないと聞いているが、投稿数が伸びていな

い理由は何か。個人的には、ひな形となる論文が少なく、論文の書き方が不明瞭であると考えている。

(伊藤委員) デザイン・作品部門、計画・マネジメント部門は現在の D1 にも設けられている。投稿数の減少については、締め切りのない論文集に移行してから、D1 全体、および土木学会論文集全体として見られる傾向である。締め切りがないことが原因の一つであるという話がある。

(山下委員) 土木学会論文集に統合されて以降、デザイン・作品部門の投稿はない。メリットが感じられない等の理由も考えられるが、正確なことは把握できていない。

(樋口委員) 景観・デザイン研究論文集の経緯を考えると、当初はデザインという営為に着目したいという思いがあったはずで、残念に思う。

(関委員) 研究発表会においても作品部門の発表数が減ってきている。原因としては、プロジェクト全体を通してコンサルタントがデザインに関わる案件が少ないこと、関係者との都合上、文字として残しにくいことが考えられる。そのため、プロジェクト内の要素技術で評価ができるようにと考えているところで、テクニカルディスカッションなどもそうした取り組みの一つである。

(天野委員長) A、B 部門における論文の通し方が不明確であることは確かである。

(山下委員) その点を明確にするためにも、H25 年度の研究発表会で星野先生 (D1 編集小委員会委員) に編集方針を發表いただいた。D 部門に投稿されているものでも、A、B 部門の方が適切と判断されるものもある。記録性等を重視している等のメッセージが未だ不十分かもしれない。

(北村委員長) A、B 部門で何を評価しているのかはわかるのか。

(山下委員) HP 上で重視する点を公開している。また、土木学会論文集に統合されたことで、原著論文以外にも、報告、ノートといったカテゴリーも増えており、投稿は行いやすくなっている。j-stage が CiNii の検索結果に表示されない等、土木学会論文集全体の問題もある。

4) デザイン賞選考小委員会

・齋藤委員より、資料-1 に沿って、新年度の体制について報告がなされた。

(齋藤委員) 協賛については前年度と同様の団体に報告を行っている。

5) デザイン賞検討 WG

・福井委員より、資料-3 について報告がなされた。

(伊藤委員) デザイン賞選考小委員会と WG とはどのような関係なのか。

(福井委員) 単年度では解決できない課題について検討するのが WG の役割である。

(伊藤委員) D1 編集小委員会からのお願いとして、受賞作品の論文投稿を推薦するといった仕組みを考えていただきたい。論文集では図面をより多く掲載できるといった点で、作品選集との違いを出すことはできると考えられる。

(松田委員) デザイン賞については、北海道でも知名度が低い状況である。一方で、特に土木の日に行っている選奨土木遺産の表彰については、各種メディアにも取り上げられており、注目度が高い。同じ土木の日、管区内のデザイン賞受賞作品を再度表彰・報告することはできないか。

(福井委員) 支部との連携については、募集を含めてこれまでも検討を行ってきたが、引き続き議論を続けたい。

(天野委員長) 選奨土木遺産については、選奨土木遺産選考委員会が実施している。位置付けとしてはデザイン賞と同じであるため、可能性は高いと思われる。

6) 土木デザインコンペ実施ガイドライン検討 WG

・佐々木委員より資料－4について報告された。

(佐々木委員) IABSE のガイドラインについては、久保田先生が既に和訳されており、IABSE の日本支部を通じて公表していきたいと考えている。次回は 9 月に大阪で開催予定であるが、全国大会と日程が重なれば、委員以外の方もオブザーバーとして参加いただきたい。

7) 「国土交通省技術基本計画への意見提出」報告、及び建議ルール改正案

・井上幹事より資料－5について報告された。

(井上幹事) 学会からのアンケートを待つ状況ではなく、国交省からのパブコメ等に積極的に意見を出すという方向性で進められればと考えている。そのためにも、国交省委員からの情報提供をいただきたい。

(松田委員) 意見照会として情報が入ることもあるが、回答締め切りまでの時間は限られている。パブコメ等を活かして、国交省の上流の施策に反映できるようにすべきである。

(福井委員) 本省でないとわからないことも多い。e-Gov のパブリックコメントのサイトに集約はされているが、絞り込むのが難しい。

(松井委員) 景観が分野を示すものである以上、景観に配慮すると何が起こるかという点を分かりやすく伝えないと、行政側で項目として盛り込むことが難しいのではないかと。大阪府、大阪市では、都市間競争の武器として景観を位置づけていることがあり、見た目も負けているから何か対策を進めるといった発想で動いていた。

(重山幹事) 情報を入手した方が適宜発信するという方向で進めていただきたい。

(井上幹事) 関連情報として、JSCE2010 に続いて JSCE2015 を策定中である。1 月に委員会に意見照会が入ったが、委員長、幹事長一任で意見提出し、景観の内容が項目として反映されたことを確認している。

(井上幹事) 『「学会としての「建議」のルールについて」の改正(案)』にある通り、委員長名での建議の発出については、部門会議での確認が必要とされている。

(天野委員長) 当初は、より委員長名で建議を出しやすくするという方向で議論が行われていたはずである。部門会議は、研究委員会全体をマネジメントする研究企画委員会の上位にあり、月に一度程度開催されている。この内容だと、理事会の議決が必要であると部門会議で判断される基準が不明瞭である。一度手続きを進めてみないとわからない。

8) 委員会会計報告

・大波幹事より資料－6について報告された。

(天野委員長) デザイン賞協賛金については管理費を 5%としたので、計算が異なるのではないかと。

(大波幹事) 修正を行いたい。

9) H25 年度活動度評価と H26 予算について

・井上幹事より資料－7、資料－8、資料－10について報告された。

(井上幹事) 行事の参加人数把握のために、25 年度より名簿の提出が求められることになっている。景観開花等、参加人数が把握できなかったため報告ができなかったが、共催行事があれば、

その都度名簿等とともにご報告いただきたい。

(伊藤委員) 都市環境デザイン会議には共催をお願いすることができると思われる。

(重山幹事長) 情報発信数にカウントされる出版物に定義はあるのか。

(横山幹事) 以前に研究事業課に確認したところ、出版社を通して一般の書店に並ぶ出版物ということであった。

(福井委員) ウェブサイトのページビュー等も入れてもよいと思われる。

(天野委員長) ページビューだとどのように見ているのかどうか判断できないという話があったと思う。

5. その他情報提供・意見交換

・別紙-3『土木コレクション2014』について、樋口委員より情報提供された。

(樋口委員) 100周年事業実行委員会の市民交流事業として位置づけており、基本的には学会関係者を動員しないという方針で行っている。個人的に興味がある方には是非お声掛けいただきたい。

(福井委員) 都市計画学会学会誌の6月号は景観法10年の特集を組んでいる。また、100周年記念切手が6月1日プレスリリース予定である。大日本コンサルタントの松崎さんに下絵を描いていただいた。

(天野委員長) 土木学会技術者資格に景観分野を設けることについて、是非取り組みを進めたい。

(佐々木委員) 事務局が説明を行うので、会議に趣旨が伝わりにくいところがある。

(佐々木委員) 委員会のタコツボ化を防ぐために、他分野の方を巻き込む方法を継続して考えなければならない。今年の全国大会では重山幹事長より共通セッションを発表していただく。また、デザイン賞検討WGで毎回議論していることに、プロボ等の加点に結びつける話がある。

(天野委員長) 建設コンサルタンツ協会と国交省での話し合いの場で是非議論が行われるようお願いをしたい。

(松井委員) 建設コンサルタンツ協会にも美しい国づくりに関する委員会がある。建設コンサルタンツ協会と日本建築家協会による、景観をテーマとした会長対談が両協会誌に掲載される。

(天野委員長) これまでは公式な委員会や会議外で関係各所と調整を行うことはあまりなかったが、現在抱えているテーマを実現するためにも、そういった調整が必要になってきている。

(樋口委員) 土木学会と社会との関わりを深める活動はこの委員会の大きな役割だと感じている。結果を確実に出して外部に発信するためにも、ミッションを決めて委員会を運営するという方法も検討したい。

以 上